

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Association of pre-pregnancy body mass index and gestational weight gain with continued breastfeeding until 6 months postpartum in Japanese women: the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

妊娠前 BMI および妊娠中体重増加と生後 6 ヶ月までの母乳育児継続との関連:エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 富山ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: BMC Pregnancy and Childbirth

年: 2025 DOI: 10.1186/s12884-025-07429-y

筆頭著者名: 稲寺 秀邦

所属 UC 名: 富山ユニットセンター

目的:

エコチル調査のデータを用い、妊娠前 BMI (Body Mass Index: 体格指数)、妊娠中の体重増加量と生後 6 ヶ月までの母乳育児継続との関連を明らかにすることを目的とした。

方法:

エコチル調査に参加する 82,129 人のデータを用いて解析を行った。妊娠前 BMI により、やせ (18.5 未満)、正常 (18.5 以上 25.0 未満)、肥満 1 度 (25.0 以上 30.0 未満) の 3 群に分け、日本産科婦人科学会の基準により、妊娠中の体重増加が不十分、適正、過剰の 3 群に分け、6 ヶ月までの母乳育児継続 (産後 6 カ月間の授乳継続は、次の 3 つのパターンに分類した: EBF (授乳のみ)、非 EBF-I 型 (6 カ月間の粉ミルクによる授乳)、非 EBF-II 型 (6 カ月未満の授乳)) との関連について検討した。妊娠前 BMI が正常かつ、妊娠中体重増加量が適正群を基準としてオッズ比および 95% 信頼区間を算出した。

結果:

妊娠前 BMI は、やせ 16.6%、正常 75.3%、肥満 1 度 8.1% であり、EBF の継続割合は、それぞれ 37.1%、37.2%、26.8% であった。妊娠前に BMI がやせの集団では、妊娠中の体重増加量が不足および過剰群で、非 EBF-II 型のオッズ比が、有意に高かった。妊娠前の BMI が正常体重の女性では、妊娠中の体重増加量が不足群と過剰群で、非 EBF-II 型のオッズ比が有意に高かった。また、BMI が過体重の女性では、妊娠中の体重増加量に関係なく、非 EBF-I 型および II 型のオッズ比が高かった。

考察 (研究の限界を含める):

妊娠前 BMI および妊娠中の体重増加量は、完全母乳育児と関連する要因であることが示唆された。本研究の限界として、妊娠前体重は自己申告に基づいており、正確でない可能性がある点、母乳育児については、6 ヶ月時点での質問票に基づき情報収集を行っているため、生後からの母乳育児継続の情報が正確でない可能性がある点がある。

結論:

BMI の「やせ」および「正常」の母親は、妊娠中体重増加量を適正にすることが、6 ヶ月までの母乳育児継続の観点から望ましい可能性があります。